

平成26年度COC地域円卓会議プロジェクト採択プロジェクト

番号	プロジェクト名称 プロジェクト実施責任者	プロジェクト概要
1	<p>大洗町ユニバーサルツーリズム支援組織の企画・設立</p> <p style="text-align: right;">工学部都市システム工学科 教授 山田 稔</p>	<p>大洗町は、観光目的来訪者の環境整備を方針としており、震災復興策の一つとして期待されるが、さらなる町内資源の発掘、受入れ事業者等の充実、人口減少が進む中での施設維持、来訪者を含む防災意識の向上、などの課題がある。さらに、サンビーチでは障害者の海水浴受入れで全国で先進的な実績を上げ、震災後の築堤工事と合わせた拠点整備が検討されているが、交通や宿泊等との連携や情報発信等の支援態勢がなく、国が示すユニバーサルツーリズムの水準に届いていないのが現状である。</p> <p>大洗町内では、サンビーチで活動してきた団体を中心に2014年2月から勉強会を開催しているが、本プロジェクトではそれを実務的な水準に高めるため、実務関係者を交えた円卓会議を実施するとともに、その成果を広く町民等にアピールすることで、これら課題を解決するために地域自らが関係主体間の連携を促進させる企画立案を行い、かつそれを永続的な形にしていくことを目的とする。特に、商業、観光、まちづくり・防災、福祉・人権等、行政内部でも広汎な分野にわたることから、これらの連携を促すことを目指す。</p> <p>本プロジェクトでの企画立案と組織設立が実現すれば、地域が国内外から障害者を含む多様な来訪者を受け入れることで、町が実施する環境整備をより効率的なものとするとともに、地域住民が自ら町を活性化していく意識を高める効果が期待される。</p>
2	<p>水戸市における新市民会館プロジェクト</p> <p style="text-align: right;">工学部都市システム工学科 准教授 熊澤 貴之</p>	<p>2012年に劇場法が施行され、市民会館のような公共ホールは、貸館としての役割ではなく、「人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点」「地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能」を求められた。しかし、多くの公共ホールの作り方と運営方法は、体系的な計画化・実施からはほど遠いのが現状である。この原因は、建設後における市民参画の運営だけでなく、建設前後における市民と自治体の一体的な関わり方の欠如にあるのではないかと考えられる。法令化によって理念は強化されたが、実現化に向けた創生策は未だ定まっておらず、体系的な計画論からはほど遠い。</p> <p>そこで、申請者は現在進行中の水戸市新市民会館プロジェクトにおいて、水戸市役所と市民団体、水戸芸術館学芸員、芸術団体などのステークホルダーと「水戸市民会館の作り方と運営方法を考える協議会」を立ち上げ、継続的にワークショップを行うプロジェクトを実施する。学生は議題となる内容の資料を収集し、ワークショップにおいて報告発表することで、実践的な教育を体得する。</p>
3	<p>「ヤギが担う地域の環境とくらし」円卓会議プロジェクト</p> <p style="text-align: right;">農学部 教授 安江 健</p>	<p>小型で取り扱いが容易で、しかもほとんどの野草資源を餌として活用できるヤギの価値が見直され始めている。本プロジェクトでは、増加する管理放棄林や耕作放棄地の除草対策、加えて太陽光発電施設等の省力的除草管理にヤギを活用することを通してヤギの復権を図るとともに、ヤギ飼育の新たな価値として「食と命の教育」などの教育的活用や、「動物介在療法」などの福祉的活用法を模索する。</p> <p>最終的には、耕作放棄地面積が2番目に多く、県民1人当たりの医師の数が最も少ない茨城県で「ヤギを通じた地域づくりモデル」を構築することで、ヤギ飼育農家の増加という農業振興に資すると同時に、人口減少地域の地域振興に寄与することを目的とする。またこれら振興策の策定過程に学生をPBL方式で参画させることで、「地域課題に目を向ける茨城県人」の教育に役立てる。</p>